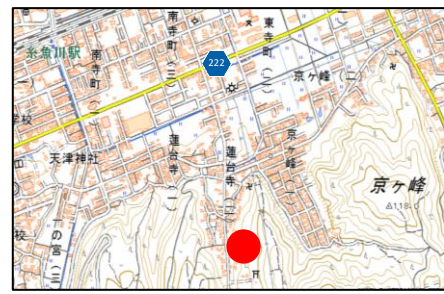


たにむらけじゅうたくおもや
谷村家住宅主屋・
 たにむらけじゅうたくどぞう
谷村家住宅土蔵



主屋



土蔵

- ・ 指定日 平成11年2月17日
- ・ 所在地 蓮台寺2丁目
- ・ 員数 各1棟
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者

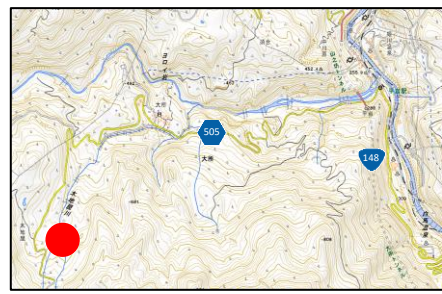
[地図表](#) 戻る



江戸時代に庄屋を勤めた齊藤家の屋敷を昭和45年（1970）に谷村家が購入したものです。

土蔵は19世紀中期の建築です。木造二階建て、屋根は切妻造鉄板葺で、風雪に対応するため漆喰壁の二階の床の高さまで杉材の下見板が貼られ、木札には「再建立 嘉永」の文字が記されています。

主屋は19世紀初期の建築です。木造平屋建、屋根は寄棟造茅葺で、現在は鉄板がかぶせられています。床はニワと呼ばれ、土間より80cm程高く、西頸城地方の山間部に見られる民家の特徴を良く示しています。柱の上は手斧梁ちょうなばりと呼ばれ、しっかりとした部材が組みられています。

きじやみんぞくしりょうかん
木地屋民俗資料館

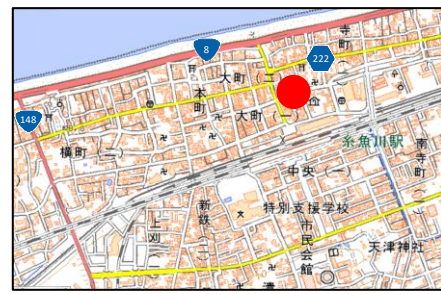
- ・ 指定日 平成14年9月3日
- ・ 所在地 大所
- ・ 員数 1棟
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者
- ・ 時代 江戸

[地図](#)
[表](#) 戻る



江戸時代末期よりこの地方に定着した木地屋集落のヤジロウ家を移築したものです。寄棟造茅葺でしたが、現在は鉄板葺です。
手斧梁の梁組や小屋の又首組など一般の農家と同様ですが、内部は茶の間を除いて作業場等とした2階床があり、高い外壁に特色が見られます。現在は[糸魚川木地屋の製作用具と製品コレクション](#)を展示収蔵する資料館として利用しています。

きゅうたかの しゃ しん かん
旧高野寫眞館
 たかの けじゅうたくおもや
(高野家住宅主屋)



- ・ 指定日 平成21年8月7日
- ・ 所在地 大町2丁目
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者
- ・ 時代 昭和

[地図表](#) 戻る



高野寫眞館は、糸魚川町（現糸魚川市）に鉄道が開通した1912（大正元）年の創業です。

1928（昭和3）年の糸魚川大火で一度焼失し、今の建物は同年に当時では珍しい鉄筋コンクリートで再建されたため、1954（昭和29）の大火では建物内部だけの焼損に収まり、同年に改装されました。

創業者高野悌一は、短歌同人会「木蔭会」^{こかげかい}に所属するなど相馬御風とは長く友人関係にありました。御風の良寛遺跡巡りに写真師として同行しています。また、昭和3年糸魚川大火からの復興象徴歌「糸魚川小唄」（相馬御風作詞・中山晋平作曲）の制定に尽力しました。

いわさき けじゅうたくしゅおく
岩崎家住宅主屋・
 いわさき けじゅうたくどぞう
岩崎家住宅土蔵



主屋



土蔵

- ・ 指定日 平成27年8月4日
- ・ 所在地 大和川
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る

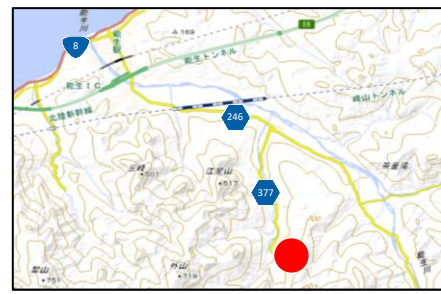


岩崎家は江戸時代、大和川村、真光寺村の2村を代々管理する大肝煎おおきもいり（割元、大庄屋）で、清崎（糸魚川）藩主と親交が深く、幕末期の御隠殿建築時の絵図、御普請日記が残されているほか、岩崎家の業績は、同家収蔵の古文書、絵図に詳細に記載されています。

現在の建物は、過去帳や見取図などから寛政2年（1790）6月の再建とみられ、書院造りや枯山水の庭、茶室前の露地（茶庭）の造りなどに特徴が見られます。

また、岩崎家には数多くの縄文土器ほか、伊万里焼などの陶磁器、石器、古銭や平安時代のものとみられる須恵器などが残されています。

しまみちこうせんおもや
島道鉱泉主屋・
 しまみちこうせんはな
島道鉱泉離れ



主屋



離れ

- ・ 指定日 平成31年3月29日
- ・ 所在地 島道
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者

[地図](#)
[表](#) 戻る



島道鉱泉は山中にひっそりと佇む鄙びた温泉宿です。

主屋は北面して建ち、背面西端に離れがL字型に接続しています。切妻造り総二階建てで、主屋の中央に中廊下を通して東西各二室を設け、離れの一階に広間、二階に座敷二室を設けています。正面全面を掃き出しとするなど開放的なつくりで、伝統的な湯治場の風情を伝えています。

宿の居間には、現在では生産されなくなった丈夫で縁のない「チガヤ（チンバリ）ドコ」とも「ヤロダタミ」とも呼ばれる仙^{せん}納^{のうおもて}表が今でも敷かれています。



てつどういちぶりえきえきしゃ
**えちごトキめき鉄道市振駅駅舎・
 えちごトキめき鉄道ランプ小屋**



駅舎



ランプ小屋

- ・ 指定日 令和5年2月27日
- ・ 所在地 市振

- ・ 所有者 えちごトキめき鉄道株式会社
- ・ 管理者
- ・ 時代 明治

[地図](#)
[表](#) 戻る



市振駅は、泊～糸魚川間という国内有数の難所で北アルプスの急峻な断崖を貫く鉄路整備の拠点としての役割を兼ねた重要な施設でした。駅舎は明治41年（1908）に竣工した建築物です。木造平屋建ての瓦葺き切妻屋根で、回廊を巡らした造形など明治～大正期にかけての国有鉄道駅舎の様式がうかがえます。また、屋根の上には雪下ろしの際に命綱を結びつける金具が残っています。

ランプ小屋は、煉瓦造平屋建ての瓦葺きで上部にもみじ蛇腹積み（雁木積み）、下部にはイギリス積みが採用されています。過酷な自然環境下に建設する上で強度と施工性を兼ねた備えた仕様となっています。窓上部にはジャックアーチといった特徴も見られ、作業用灯具の燃料貯蓄設備として使用されていました。



てつどう
えちごトキめき鉄道
おやしらず えきえきしゃ
親不知駅駅舎



- ・ 指定日 令和5年2月27日
- ・ 所在地 歌
- ・ 所有者 えちごトキめき鉄道株式会社
- ・ 管理者
- ・ 時代 大正

[地図](#)
表 戻る



親不知駅は、泊～青海駅間延伸時に一般駅として西頸城郡歌外^{なみ}波村に開業しました。駅舎は、大正元年（1912）に竣工した建築物です。木造一部2階建ての瓦葺き切妻屋根、回廊を巡らした造形など明治期の国有鉄道駅舎の様式がうかがえます。また市振駅^{うたと}駅舎同様、屋根の上には雪下ろしの際に命綱^{いのちづな}を結びつける金具が残っています。